

ポスターセッション (P - 水環境 - 1 ~ 15)

本ポスターセッションでは水環境について、14編の発表が行われた。(P - 水環境 - 1)、(P - 水環境 - 7)では、LAS、AE、DHTDMAC 及び AO 等の界面活性剤の季節変動、経年変化、分解性及び生態リスクについて報告した。本報告では生態リスクは小さいということであったが、界面活性剤については、様々な種類や分解生成物があり、水生生物への影響について懸念されている。今後も、様々な研究が行われ、それらの挙動について明らかにされることが期待される。(P - 水環境 - 2)では、水質汚染が顕著なハノイ周辺の河川および湖沼における重金属類汚染の実態が報告され、その発生源について推定した。(P - 水環境 - 3)では、使用段階にある代表的な用途における亜鉛のストック量の経年変化と環境排出量を推定し、これにより、亜鉛の発生源は事業所だけでなく最終製品からのノンポイント汚染も重要であること、その寄与率は場所によって違うことを結論付けた。(P - 水環境 - 4)、(P - 水環境 - 5)では、降水等に含まれる PAHs 等についての季節変動及び化石燃料消費などの発生源の考察がなされた。(P - 水環境 - 6)では、非ステロイド系抗炎症剤の環境動態とその急性毒性試験との比較がなされた。急性毒性試験からは、影響がそれほど高くないと予測されたが、今後、慢性毒性試験での検討が期待される。(P - 水環境 - 8)では、ヒトや水棲生態系への影響、生産量及び分析法の観点から水道水源で優先して監視すべき医薬品についてリストアップした。(P - 水環境 - 9)では、1,4-ジオキサンの存在状況と VOC 使用事業所の関連性について検討した。1,4-ジオキサンと VOC 濃度の相関性は無かったが、今後さらに調査を進めるとのことである。(P - 水環境 - 10)では、降雨などによる窒素負荷の変動について検討した。硝酸態窒素だけでなく、アンモニア性窒素も検出されることから、堆肥や、畜産排水の影響が高いと考えた。(P - 水環境 - 11)では、降雨などによる森林からの窒素負荷の変動について検討した。雨量だけでなく、流域内の硝酸態窒素の変動が累加負荷量に影響すると推定した。(P - 水環境 - 13)では、都市河川における大腸菌群の VBNC 化について検討した。(P - 水環境 - 14)、(P - 水環境 - 15)では、河川でのアユの生息に着目し、付着藻類の現存量等の調査を行った。今後、更なる付着藻類の変動の解析、農薬の暴露量等との関係などの検討が期待される。

(神奈川県環境科学センター 三島 聡子)